

中小企業等の脱炭素経営を支援します

豊田市 脱炭素スクール vol.3

SINCE 2021

第3期 豊田市脱炭素スクール修了式



国際的なカーボンニュートラルの潮流の中で、脱炭素化への対応を、経済成長の制約やコストと考える時代は終わり、成長の機会と捉える時代に突入しました。

脱炭素社会を実現するためには、それぞれの事業者が、それぞれの道を探っていく必要があります。

豊田市では、中小企業向けに、脱炭素経営のポイントや省エネ推進・再エネ導入の実践手法を学び合う場「豊田市脱炭素スクール」を2021年に開校しました。

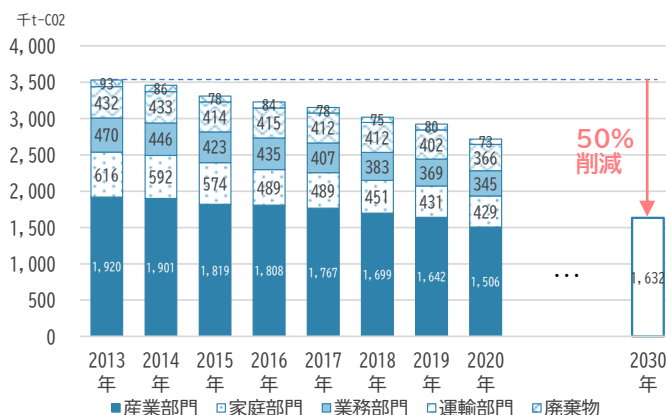
脱炭素経営のメソッドが詰まったスクールを契機に、企業の自主的な脱炭素化への取組が進みつつあります。

豊田市環境部環境政策課

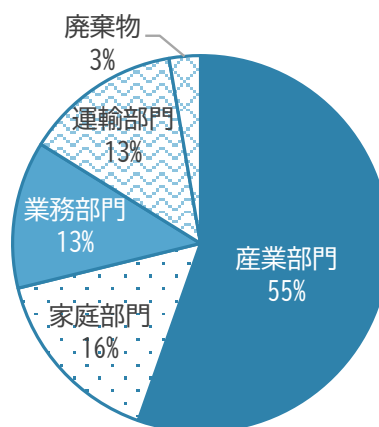
◆ ゼロカーボンシティに向けて

- 本市は、世界をリードするものづくり産業の中核都市としての顔を持ちながら、「環境モデル都市」に選定されて以後、低炭素社会の実現に向けて環境やエネルギーに関する先進的な取組を進めてきました。
- 2019年11月には、「2050年にCO₂排出実質ゼロ」を表明し、これまでの低炭素から脱炭素へ目標を引き上げました。2030年に2013年度比50%削減という目標を掲げ、市民・事業者・行政が一丸となって、2050年ゼロカーボンシティに向けた取組を加速化しているところです。
- 本市では、産業部門のCO₂排出量が約55%を占め、全国に比べて大きな割合となっています。業務部門も約13%を占めており、2050年ゼロカーボンシティ実現に向けては、市内の産業・事業活動からの更なるCO₂削減が必要となっています。

市域におけるCO₂排出量推移



市域におけるCO₂排出量の部門別割合(2020年)



◆ サプライチェーン全体での脱炭素化の動きが加速

- 産業界では、グローバルに活動を行う大企業を中心に、気候変動対策が経営上の重要課題と認識され、脱炭素経営に取り組むことが、リスクの回避、成長へのチャンスとして捉えられるようになってきました。
- 近年、ライフサイクルアセスメント(LCA)の観点から、自社の脱炭素だけでなく、原材料製造時や製品使用時等も含めたサプライチェーン全体で、CO₂排出量の見える化や脱炭素化を目指す動きが広がっています。サプライチェーンを支える市内の中小企業においても、脱炭素化に向けた取組が求められています。



サプライチェーン排出量とは・・・

事業者自らの排出だけでなく、事業活動に関係するあらゆる排出を合計した排出量。つまり、原材料調達・製造・物流・販売・廃棄等、一連の流れ全体から発生する温室効果ガス排出量のこと。

$$\text{サプライチェーン排出量} = \text{Scope1排出量} + \text{Scope2排出量} + \text{Scope3排出量}$$

事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)

他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

豊田市脱炭素スクールとは

- 本市が目指す、2050年「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて、市内企業の経営者を中心に、自主的に脱炭素化への取組を進めていくため、脱炭素経営のポイントや省エネ推進・再エネ導入の実践手法を学び合う場として開校しました。

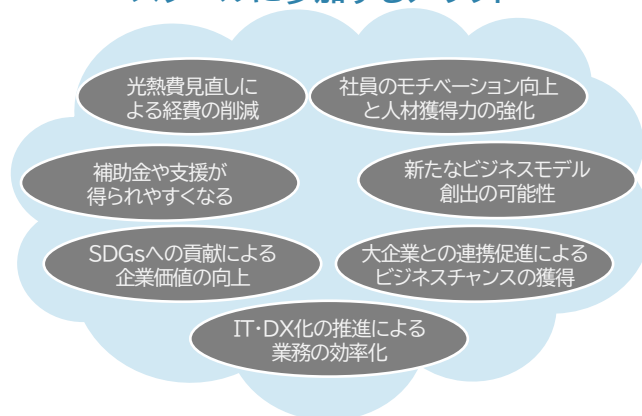
スクール概要

対象企業	豊田市内企業(業種は問いません)
期 間	年間8回の連続講座(11月開講) ※第1期・第2期は全10回で実施
形 式	脱炭素経営及び削減対策の基礎知識やポイント等を学ぶ「講義」、自社のCO ₂ 削減効果の考え方や事業計画の組立てを学ぶ「演習」を組み合わせ、より実践的に学べる内容です
修了条件	①全ての講座を受講 ②本講座成果のとりまとめ・発表 ③企業としての本講座成果の発信
主 催	豊田市
共 催	豊田商工会議所
協 力	豊田信用金庫
事務局運営支援	株式会社地域計画建築研究所(アルパック)

こんな企業が参加しています

- ✓ サプライチェーンを通して脱炭素化に向けた取組が必要に迫られている企業 等
- ✓ 脱炭素経営に興味があり、脱炭素化に向けた目標や取組を発信したい企業 等
- ✓ 企業等の脱炭素経営に関心がある、融資等を検討している金融機関 等

スクールに参加するメリット



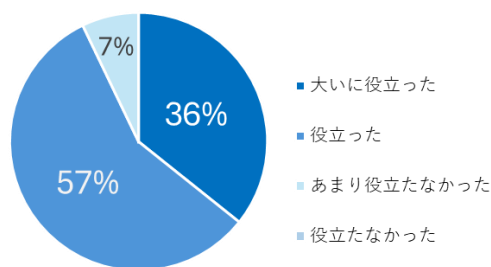
スクール参加企業の声

第3期スクール参加企業に、アンケートを実施しました。

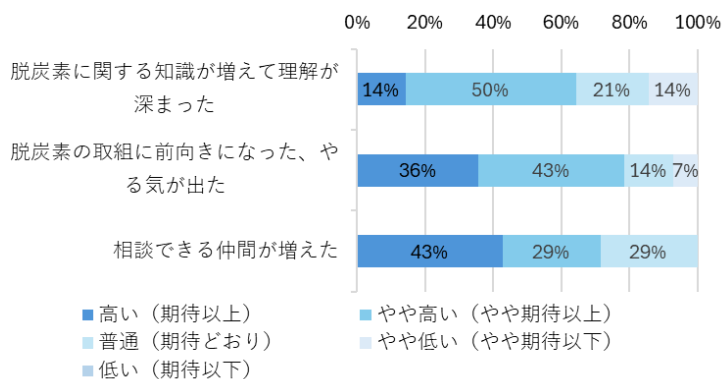
回答された約9割の企業が、自社の脱炭素経営の推進に、「スクールが役立った」と回答しています。

また、回答された企業のうちの約7割が、スクール受講後の変化として、「社内で脱炭素化の位置付けが向上した」と回答しています。

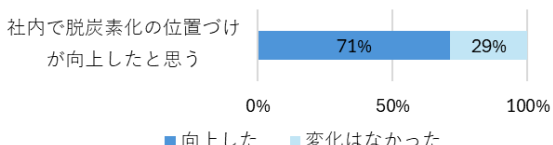
<貴社の脱炭素化推進に本スクールが役立ったか>



<スクールに対する評価>



<スクール受講後の変化>



<その他の意見について>

- ・ 脱炭素に本気で取り組む姿勢になってきた
- ・ 社員の脱炭素化の意識が変わった。
- ・ 豊田市での脱炭素の取組みが積極的であることを知ることができた。
- ・ 取引先からどんな感じで社内活動をしているか、問い合わせや現地視察があった。

(※第3期スクール生16社うち、14社より回答)

「豊田市脱炭素スクール」を開催！

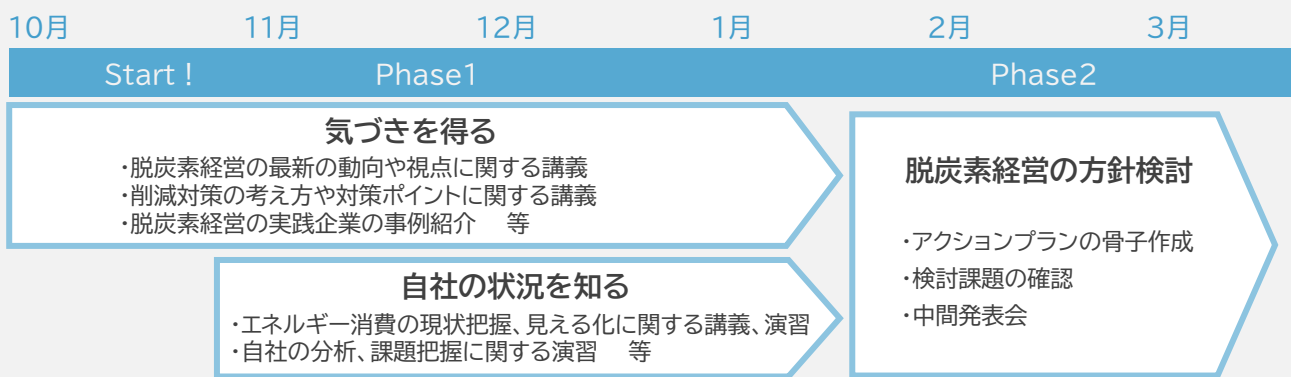
「豊田市脱炭素スクール」では、約1年間で脱炭素経営の基礎から応用まで学びます。本スクールは2021年に開校し、製造業をはじめ、運輸業や建設業、サービス業など、脱炭素経営に前向きな様々な業種の企業が参加しています。すでに、第1期生～第3期生、計39社の企業が本スクールを修了されています。

各社、講義と演習(グループワーク)を通して、自社の脱炭素化に向けた事業計画である「脱炭素経営アクションプラン」の作成に取り組みました。スクールへ参加した企業同士でネットワークも形成しながら学び合いを重ね、全てのカリキュラムを修了され、最終回に修了式及び成果報告会を開催しました。

スクールの主な流れ

- 全体アドバイザー・講師が、スクール全回を通してアドバイス・支援を行います
- スクール参加企業同士で意見交換・相談しながら、自社のアクションプランを作成します

(年間スケジュール)



■開校記念講演会(Start !)



[全体アドバイザー・講師]

畑中 直樹 氏

博士(環境科学) 大阪大学大学院工学研究科招聘教員

豊田市総合計画審議会委員

総務省地域力創造アドバイザー 北海道松前町参与

ひょうご持続可能地域づくり機構(HsO) 代表理事 など

「脱炭素経営の動向と視点を知る」と題し、畑中氏から講演

- ・グローバルな視点からの気候変動、脱炭素の潮流
- ・気候変動とビジネスの関わり など

参加企業みんなで、脱炭素(環境)、体制や人材(社会)、コストや新規展開(経済)を統合した経営戦略を、自らの力で立てていただきます。

■中小企業の先進的な取組紹介(Phase1)



第2期以降は、修了生が参加し、自社の取組内容の紹介や意見交換を実施

中小企業版SBT(SBTi)にいち早く参加された、脱炭素経営の実践企業*から、脱炭素経営への思いや具体取組、社内の意識醸成や社内体制の構築などを紹介

- * 榊原工業(株) (西尾市、鋳型中子製造業)
- * (株)大川印刷(横浜市、印刷業) など



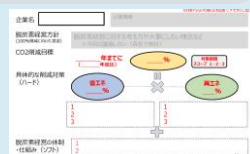
■補助メニュー等の紹介、ゴールの想定(Phase2)



環境省や豊田市から、国のガイドブックや補助制度などを紹介

全員でゴールを共有、中間報告に向けて各社でアクションプランの骨子を検討

脱炭素経営
アクションプラン
骨子の作成例



■各社の自己紹介と初回講義(Phase1)



スクールに参加する企業同士で自己紹介を行っていただき、脱炭素経営に向けた達成目標や意気込みを共有

初回講義で、「自社におけるCO₂排出量の見える化」をテーマに、脱炭素経営を実施する上で最も大切なポイントをレクチャー



■中間報告(Phase2)

アクションプラン骨子の検討状況や、完成に向けて残された課題等を各社から中間報告し、全員で共有



第1期生・第2期生・第3期生のみなさんは、自社の脱炭素化に向けた事業計画や取組等を発信するとともに、脱炭素経営の実践やその後のPR活動に取り組まれています。

～ Column ～

皆さんの会社は、どのような経緯で脱炭素経営の推進を始めましたか？「取引先からの要望」や「光熱費や燃料費の経費削減」といった様々な理由があるかと思います。豊田市脱炭素スクールでは、このようなリスクへの対応としての「守りの脱炭素経営」から一歩進み、「脱炭素」を企業の成長戦略のチャンスとして捉える「攻めの脱炭素経営」を推奨しています。

具体的には、攻めの脱炭素経営に取り組む上で重要なのは、「社外に積極的にPRすること」です。脱炭素経営を社外へPRすることで、「新規顧客の開拓」や「知名度・認知度の向上」、「新たな資金調達の獲得」などに繋がります。

本スクールでは、攻めの脱炭素経営を進める手段として、豊田市SDGs認証制度*1、とよたSDGsパートナー*2、SBT認定*3へのコミット等、様々なイニシアティブへの参加方法を紹介しています。ぜひ、スクールにご参加ください！



DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

※3) SBT認定とは、パリ協定が求める水準と整合した、企業が設定する温室効果ガス排出削減目標のこと



※1) 豊田市SDGs認証とは、豊田市が定めるSDGsに関連する取り組みを行っている団体や企業を認証する制度
※2) SDGsパートナーとは、豊田市と企業等がSDGs達成に向けた活動を相互に連携しながら進めることを示す取組



脱炭素経営アクションプランの組み立て

- ・CO₂算定と削減目標設定
- ・削減効果の想定
- ・削減対策(省エネ・再エネ)の検討
- ・推進体制等の検討 等
- <講義>
 - ・脱炭素経営のポイント
 - ・再生可能エネルギーの導入方法
 - ・アクションプランの組み立て方
 - ・SBT認定等イニシアティブの取り方 等
- <演習・グループワーク>
 - ・各社検討内容や課題の共有
 - ・意見交換

成果発表

修了式／
成果報告会

スクール修了

■演習、グループワークを中心に(Phase3)

各社アクションプランを組み立てながら、全体アドバイザー・講師からの講義や助言、グループでの意見交換をもとに、各社でアクションプランをブラッシュアップ



全員で共有
・学び合いを
重ねます

<講義>

- ・脱炭素経営のポイント
- ・見える化の方法
- ・Scope3の考え方・手法
- ・再エネの導入
- ・イニシアティブの取得方法
- ・その他、悩みどころ など

<意見交換>

- ・見える化の方法
- ・目標設定の考え方
- ・省エネ・再エネのバランス
- ・推進体制 など

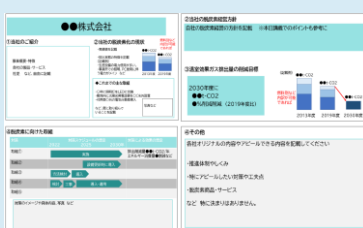
再エネ調達は
参加企業から
も話題提供

市や地域金融機関からの
情報提供も

- ・市補助金等の支援制度(個別相談会も実施)
- ・金融機関の脱炭素支援サービス



個別相談やメール
等でもフォロー



脱炭素経営アクションプランのイメージ

■内部成果発表会(Phase3)

全参加企業が
アクションプラン
を完成、スクール
内で発表、アドバ
イザーから各社
へメッセージ



■修了式、成果報告会(GOAL !)

市長から
修了証授与

第3期 豊田市脱炭素スクール修了式



企業から
アクションプラン
発表



市長やアドバイザー
等から講評



★番外編★
交流会開催など、参加企業同士の
コミュニケーションも重視



株式会社 市川鉄工所

所在地: 豊田市宝町
業種: 製造業 従業員数: 66名

豊田市認証
SDGs Certification SILVER

脱炭素経営方針

- 夕飯のネタになるカーボンニュートラル
- 子供たちが学校でCNの話聞いてきたときに、社員皆が自社の取り組みを夕飯の場で話せるような、そんな活動をしたい

脱炭素に向けた取組

① コンプレッサーの適正化・ループ化

CO₂排出量の40%を占めるコンプレッサーの元圧を適正化・配管のループ化を行いました。会社全体で前年度比18%減に繋がっています。

② カーボンフリー電力の購入

本社棟及び工場で使用する電気について、2022年から、再生可能エネルギー由来のグリーン電力契約に切り替えています。

削減目標

2019▶2030
50%削減

脱炭素スクール
受講期間中にSBTiの認定も取得でき、当社の取り組みは飛躍的に進みました。心から参加してよかったと感じています。



市川 暢啓 さん
取締役

社内のCO₂削減について考える機会となりました。将来像をふまえ課題の整理に役立ちました。



梅村 裕子 さん
代表取締役

所在地: 豊田市亀首町 業種: 建設業 従業員数: 7名

脱炭素経営方針

- 自然と寄り添う建物と暮らしの提案で持続可能な社会を目指します
- 地球環境にも優しく、住み続けられるまちづくりをすることで地域にも貢献し、頼りにされる工務店で在り続けます

脱炭素に向けた取組

① DXの推進と営業時間の短縮

DXによる作業効率化で、年間377時間の営業時間短縮が実現。光熱費削減、CO₂削減(1.32t-CO₂/年)、働き方改革等、多様な効果につながっています。

② 薪ストーブの導入

夜間電力による蓄熱暖房を見直し、薪の販売というわが社ならではの事業を活かして、薪ストーブの導入を計画しました。

削減目標

2019▶2030
43%削減



豊田電気 株式会社

所在地: 豊田市元町
業種: 製造業 従業員数: 62名

豊田市認証
SDGs Certification BRONZE

脱炭素経営方針

- 自社のみならず顧客にも脱炭素活動を提案し、持続可能な社会に貢献します

脱炭素に向けた取組

① 計画的なEV・PHV導入

移動型産業という事業特性から、交通の脱炭素化が重要な課題と認識し、購入後一定期間経過した営業車のEV・PHV化を計画的に進めています。

② 全社一体での実施体制

管理部を筆頭に、全部署の横断定例会議を実施し、計画的に取組んでいます。

削減目標

2018▶2030
49.5%削減

最初は脱炭素の取り組み方がわかりませんでしたが、顧客に提案する方針で営業にも活用することができました。



安藤 里美 さん
管理部

脱炭素スクールに参加して、脱炭素行動のスタートができました。まずは、低炭素型製品の提供、更に脱炭素型製品の提供に対する道筋が見えたこと確信しています。



松井 隆成 さん
代表取締役

所在地: 豊田市田研町 業種: 製造業 従業員数: 6名

脱炭素経営方針

- SDGs17の目標を重視し、再生可能資源を最大限に有効活用し、製品製造から製品出荷及び廃棄(再生処理)までを考慮した上で、脱炭素(低炭素)型コンクリート製品を市場提供します

脱炭素に向けた取組

① 太陽光発電パネルの設置

電力によるCO₂排出が多いため、市補助金を活用して太陽光発電33kW分を設置、自社活用しています。災害時は地域の電源供給基地として活用します。

② 低炭素型コンクリート製品

自社の脱炭素の取組の見える化し、低炭素型コンクリート製品として提供していきたいと考えています。

削減目標

2019▶2030
34%削減



株式会社 日東コンクリート工業

株式会社 ユーネットランス

所在地: 豊田市深田町 業種: 運輸業 従業員数: 550名

豊田市認証
SDGs Certification BRONZE

脱炭素経営方針

- あらゆる人とのつながりを広げながら、「持続可能な開発目標の達成」・「脱炭素社会の実現」に向けた企業活動を目指します

脱炭素に向けた取組

① ダブル連結トラックの導入拡大

ダブル連結トラックの導入拡大を進めています。25mダブル連結トラックの運行は市内初の取組で、注目を集めています。



削減目標

2013▶2030
46%削減

CO₂排出量を見える化し、低減のためにどのような取り組みが必要か、社員が興味を持つきっかけになりました

② バイオディーゼル燃料の利用

2023年3月よりバイオディーゼル燃料(廃食油の再利用燃料)の利用を開始しました。現在、2ルートでの使用を開始しています。



深田 崇仁 さん
営業管理センター



市内企業の取組事例

株式会社 アイサク

- 機器更新による削減、省エネ活動による削減、再エネ採用による削減にて、無理なく、我慢することなく、“2017年度比50%削減”を2030年度までに実現する。



代表取締役
須藤 昭一 さん

2017▶2030 50% 削減

エヌ電子工業 株式会社

- 人にやさしい製品を目指す自社目標と併せて、将来的に人類の脅威となる地球温暖化を抑えるためCO₂削減に継続的に取り組む。
- 新商品の開発にあたっては、省エネ構造を追求し、電力消費を最小限にする設計を徹底する。
- 新社屋への移転時には、省エネに加え、再エネも考慮し、脱炭素経営を継続する。



執行役員
高山 亨 さん

2019▶2030 40% 削減

株式会社 キョウエイファイン

豊田市認証
SDGs Certification SILVER

- 営業所への太陽光パネル設置及び再エネに変更する。倉庫内照明は水銀灯からLEDへ順次変更する。トラックは低燃費車両の購入、営業車は、電気自動車へ順次交換する。



代表取締役
坂元 貞仁 さん

2020▶2030 15% 削減



新明工業 株式会社

- 脱炭素の取組みで環境に優しい物作り、提供するサービスまで、クリーンな企業を目指す。



安全健康環境推進室
代表取締役
譚渡 英樹 さん

2021▶2030 55% 削減

豊田汽缶 株式会社

- カーボンニュートラルに向けて、社内を知る事から始め、社員全員が取組む事を目指し推進していく。
- お客様に設備の省エネ提案を進め、技術と知識で貢献していく。



代表取締役社長
勝田 剛彰 さん

2020▶2040 60% 削減

株式会社 豊栄商会

豊田市認証
SDGs Certification BRONZE



- 自社内の脱炭素のみならず、トヨタグループ各社への製品供給をしていく中で各社のCO₂排出削減に貢献すべく、製品の開発を行う。



開発研究室
三浦 賀津雄 さん

2013▶2030 50% 削減

株式会社 アイミクロン

豊田市認証
SDGs Certification BRONZE



- 再エネ・省エネに取り組むことで、事業基盤の強化や人材獲得力の強化、企業の持続可能性を強化する。



代表取締役
長谷川 功 さん

2019▶2030 100% 削減

おいでんエネルギー 株式会社



- 【Scope1】社用車3台中、営業車2台をEV化、作業車1台は買換えによる高燃費化を期待する。
- 【Scope2、3】2022年度内に小売りする電力すべてをCO₂排出係数0にする。
- 【Scope3】太陽光発電を更なる有効活用するために、EV及びV2H導入による余剰電力の有効活用をステークホルダーに提案する。



代表取締役
松原 俊介 さん

2019▶2030 77% 削減

サンワインダストリー 株式会社

- 脱炭素の目標達成に向け、CO₂排出量の削減活動をもって、職場環境の継続的改善を推進し、人にやさしく、地域社会や気候変動対策に貢献出来る企業を目指す。



安全技能訓練センター
西川 喜和 さん

2014▶2030 46% 削減

太啓建設 株式会社

豊田市認証
SDGs Certification GOLD



- 現状までの取り組みをベースに、「できる事からコツコツと」！
※事業の種別(オフィス・建設工事・不動産等)に応じて、現状を把握したうえで対象範囲を拡大する。



安全環境対策室 課長
牧野 利彦 さん

2016▶2030 26% 削減

株式会社 ニフコ



- ESGやSDGsの取組は、経営と一体になってこそ真の価値が発揮され则认为。今後もESG経営について社内への意識の浸透を図り、その姿勢や取り組みを社会へ明確に伝えていきたい。
- ニフコは、これからも事業を通じて社会に寄り添い、社会の困りごとを解決することによって、持続的な成長と企業価値の最大化を目指していく。



第2品質技術部 品質技術課
那須 万紀雄 さん

2020▶2030 42% 削減

※(株)ニフコ名古屋工場にて登録

三河商事 株式会社

所在地:豊田市元城町 従業員数:187名
業種:小売業、電力事業(サービス業)

脱炭素経営方針

- 地域環境に貢献することで地域の皆様の暮らしを笑顔に
- 率先して地域のCO₂を削減していき、地域の環境に貢献する

脱炭素に向けた取組

① 照明LED化・太陽光増設

本社、支店、営業所等、全6拠点の全ての照明を2025年までにLEDに変更予定。また、ソーラーカーポートの設置や事務所屋上に太陽光を設置するなど自家消費電力の最大化に努めます。

② 全社員による参加型の脱炭素経営

環境意識を高めるための研修を実施するなど、社員全員が参加する活動を行って、社員が自発的にCO₂削減のための行動ができる仕組みを作ります。

豊田市認証
SDGs Certification SILVER

削減目標

2013▶2030
50% 削減

脱炭素スクールを受講し、講師からのアドバイスや受講者との意見交換で、「まずはできることから実践していくこと」の後押しになりました!



専務取締役
早川 康精さん



スクールでは、脱炭素経営のポイントや省エネ推進・再エネ導入の実施手法を学びました。他社との交流や意見交換は大変有意義な時間でした!

所在地:豊田市上原町 業種:サービス業 従業員数:9名

脱炭素経営方針

- これからの地球のために、子どもたちの未来のために、個人事業でも無駄なCO₂排出量を削減!
- 従業員とのコミュニケーションを密には図り、良好な関係を構築しながら、一丸となって脱炭素の活動に取り組みます。

脱炭素に向けた取組

① 太陽光発電エネルギーを自家消費化

売電用として設置した太陽光パネルが2031年に売電契約終了となるため、自家消費に切り替えることで、電気について再エネ100%を目指します。

② 太陽光発電自家消費に伴うV2H導入

太陽光パネルで発電したエネルギーを効率的に使用できるように、V2Hの設置を検討しています。余った電力をEV車に供給して利用します。

豊田鋸加工所

削減目標

2021▶2031
64% 削減

株式会社 マルコオ・ポーロ化工

所在地:豊田市金谷町 業種:建設業 従業員数:45名

脱炭素経営方針

- カーボンニュートラルは経費削減にも繋がる意識を共有する。
- エネルギー使用量の見える化、脱炭素に向けての目標をたてるなど社員が取り組みを行える環境をつくる。

脱炭素に向けた取組

① 太陽光パネル・断熱材の使用

太陽光パネルを設置し再エネ導入を図る。また、本社の移転を検討しているが、移転に伴って建物(事務所)の断熱化など省エネ機器の導入を図ります。

② 工事現場に蓄電式発電機を導入

工事におけるエネルギーの供給に再生エネルギーを活用します。また、使用する資材の環境対応品の推奨し、最終目標は建設発生資材を再利用します。

削減目標

2021▶2030
44% 削減

脱炭素に向けて、様々な取組を行えるよう、会社員一人一人の意識を高めていきます。また、事務所だけでなく現場の脱炭素化にも対策を進めます。

豊田市認証
SDGs Certification BRONZE



常務取締役
太石 和行さん



総務部長
田中 なこみさん

株式会社 豊田ガーデン

とよた
SDGs
パートナー

- 花と緑を通じて社会に貢献し、お客様を幸せにします。
- スクールで学んだ省エネ・再エネを活用する「緩和策」を推進して、環境に配慮した経済活動を行っています。
- 木陰は気候変動の影響を回避・軽減させる「適応策」です。花や緑を用いて、心地よい空間を育てていきたいと思っています。

2008▶2030 50% 削減



常務取締役
天野 洋平さん

株式会社 松原電機

- セミナーやワークショップを開催し、お客様へ情報提供を行いながら地域にナレッジを広め、地域社会へ貢献します。
- 事業ごみの運搬・廃棄方法、販売した製品の廃棄方法、太陽光パネルの適切な処分方法等を工夫し、Scope3の取り組み実施を検討をします。
- 太陽光発電システム、V2H、蓄電池を提案することで地域の脱炭素化に貢献します。



エネルギーマネージメント
アドバイザー 盛田 涼さん

2022▶2030 36% 削減

アール・ティ・エンジニアリング株式会社

- 地球温暖化対策に配慮したモノづくりを目指して、実現可能な目標を設定し、継続的な改善を図ります。
- 空調機の更新に、「豊田市カーボンニュートラル省エネ生産設備導入促進補助金」を活用しました。
- 設備のDX化を進め、生産設備の生産性向上による稼働時間短縮を目指します。

2020▶2030 50% 削減



製造技術課係長
近藤 康洋さん

株式会社 市川メッキ

とよた
SDGs
パートナー

- 月初にミーティングを実施し、脱炭素スクールの学びを基に、省エネ、再エネ、脱炭素活動に対する意識の浸透と取組について話合っています。
- 薬品濃度とメッキ時間の見直しによって、メッキライン、ボイラーの稼働時間の短縮を図っています(電気・灯油のCO₂排出を11t-CO₂/年削減予想)。

SCIENCE
BASED
TARGETS

豊田市認証
SDGs Certification BRONZE



代表取締役
本多 菜子さん

2017▶2030 60% 削減

三協高分子 株式会社

所在地: 豊田市土橋町
業種: 製造業
従業員数: 87名

脱炭素経営方針

- 客観的数値を用いて脱炭素経営を見える化することにより、社は「信用第一」を深化させる。

脱炭素に向けた取組

① 射出成型機等の更新、ハイブリッド車の投入

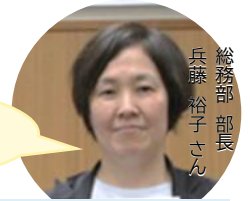
全14台の射出成型機等を2027年までに電動化、また2030年までに全車両をハイブリッド車または電気自動車に更新することを目指します。

削減目標

2013▶2030
54%削減

豊田市認証
SDGs Certification BRONZE

『脱炭素とはすなわち利益である』、
本スクールでわかりやすく学ぶ
ことができました。



総務部 部長
兵藤 裕子 さん

② オフィス電力需要削減

工場の建替えを2024年から開始します(2026年完了)。新工場建設に伴い事務所集約を計画し、業務都合により集約し切れない事務所の電力削減を目指します。

所在地: 豊田市豊栄町 業種: 建設業 従業員数: 22名

脱炭素経営方針

- 2030年までに46%の削減する。
- SBT認定の取得を目指し、認定制度を活用して脱炭素目標を達成する。

脱炭素に向けた取組

① 機械設備の省エネ化

新機械の導入を検討する一方で、古い設備の更新や増えた機械が出すCO₂のバランスを取っていくことや空調等の省エネ化に力を入れていきたいです。

脱炭素に向けて
良い刺激を受け様々な事を知ることができました。
温暖化が体感として分かる中、少しでもよい環境を維持するため色々行いたいです。



代表取締役社長
近藤 寛峰 さん

有限会社 近藤工房

削減目標

2023▶2030
43%削減

② 車両ハイブリット化

バイオエタノールや水素等を使用する車両(フォークリフト)の導入を検討していきます。

友新精機 株式会社

所在地: 豊田市前林町
業種: 製造業
従業員数: 93名

脱炭素経営方針

- 「なくす・へらす・かえる」の取り組みを愚直に進め、カーボンニュートラル実現を目指す。

脱炭素に向けた取組

① 省エアー

エアー使用時間の短縮・間欠動作・漏れ改善により、CO₂排出量6.5%減を目指します。

② 生産性向上

加工条件・刃具改善・自主保全活動などの非稼働時間を低減します。また、切削加工ノウハウを生かした生産性の向上を目指します。

削減目標

2018▶2030
46%削減

従業員への
脱炭素の理解が進み、
取組みベースUPを実感。
参加して良かったと
思っています。



製造部 次長
伊藤 正一 さん

製造部 課長
大山 亨 さん

一般 大久保 侑亮 さん



脱炭素経営方針

- 植物を用いた空間づくりを行い地球環境と向き合う。

脱炭素に向けた取組

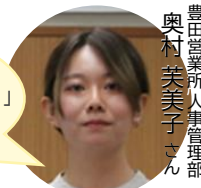
① 社用車HV化

太陽光の発電量を見ながら社用車のHV化を進めます。敷地内での発電で社用車の充電ができる体制を作ります。

② 太陽光パネル設置

社員の駐車スペースにソーラーカーポートを設置します。車内温度上昇も抑えることができ、個人の省エネもサポートします。

脱炭素に関して
「何かしなければ」という漠然とした
ものから「会社としてこの取り組みを行う」
という具体的なものになりました。
ありがとうございました。



豊田営業所 人事管理部長
奥村 美奈子 さん

削減目標

2024▶2030
40%削減

福田造園土木 株式会社

所在地: 豊田市宮町 業種: 造園業 従業員数: 36名

内浜化成 株式会社

所在地: 豊田市四郷町 業種: 製造業 従業員数: 478名

脱炭素経営方針

- 2030年度のCO₂削減目標を2013年度比-50%に設定、低CO₂生産技術の開発・導入と日常改善活動によるCO₂低減活動の推進、温室効果ガスの低減。

脱炭素に向けた取組

① 日常改善と確信技術による省エネ化

生産現場の生産I礼バ-のムダ取りによる日常改善と、新工法開発・燃料転換などの革新技术の構築で脱炭素を目指しています。

削減目標

2013▶2030
50%削減

豊田市認証
SDGs Certification SILVER

他社との交流や意見交換の中で
気づきや参考にしたい活動があり、
大変有意義時間でした



総務部総務経理課 係長
竹ノ谷 豊 さん

② 自家発電と調達による再エネ化

再エネの取組として太陽光パネルの設置・追加CO₂フリー電気の段階的調達で脱炭素化の達成を目指します。

脱炭素経営方針

- ものづくりを通じ、持続可能な社会の構築に貢献します。

脱炭素に向けた取組

① コンプレッサー改善

2014年にINVコンプレッサーを導入。2020年にはエアー配管を見直し、エアー吐出圧力を0.8Mpaから0.6Mpaへ低減できました。

削減目標

2013▶2030
50%削減

豊田市認証
SDGs Certification BRONZE



② 配送ルートの見直し

リードタイム短縮し効率的な配送ルートに変更。また配送業者を活用することで、ガソリン消費削減量8,854ℓ、排出削減量20.5t-CO₂を実現しました。

株式会社 鬼頭精器製作所

所在地: 豊田市中町 業種: 製造業 従業員数: 45名

スクール参加前は
脱炭素経営に向けて、
具体的に何を、どのように
進めていくのが悩んでいましたが、
参加してからスムーズに進める
ことができました。



事業企画室
SDGs推進室
渡辺 広之 さん

株式会社 オティックス高岡

- 21世紀社会の環境保全に貢献するため、環境との調和のある成長を目指し、全員参加でモビリティ関連部品メーカーとして気候変動、資源枯渇、生物多様性などの環境問題に取り組み、環境マネジメントを推進します。

2019▶2027 18% 削減



高岡製造部 施設課施設係 係長
戸次 将孔さん

光生アルミニウム工業株式会社

- 環境に配慮した製品・生産活動を通じて、自然と調和した豊かな社会と環境の実現を目指します。
- カーボンニュートラルロードマップに基づき、目標達成に向けて持続可能なものづくりに挑戦します。

豊田市認証
SDGs Certification BRONZE

2016▶2030 30% 削減



品質保証部 環境管理 G 課長
細井 香奈さん

横山興業株式会社

- ピンチをチャンスに、全社一丸で取り組みカーボニュートラルを実現します。
- 脱炭素経営の取組の1つとして、自家消費型太陽光の企画提案や設置事業に参入します。

2018▶2030 30% 削減



建材部 ソーラグループ 部長
杉山 達也さん

トヨキン株式会社

- 2050年カーボンニュートラルに向けて、社内での省エネ活動の推進と省エネ設備の導入により、CO₂排出量を毎年「昨年比3%以上の削減」に取り組みます。

豊田市認証
SDGs Certification BRONZE

2020▶2030 37% 削減



営業部 執行役員
柿原 良樹さん

株式会社加藤製作所

- 脱炭素経営を大きなチャンスと捉え、他社との差別化を行うことで、ビジネスチャンスの創出につなげます。
- ハイブリッド車や電気自動車への移行、太陽光発電設備の増築、研究中である炭化炉利用でCO₂削減を達成します。

2022▶2030 50% 削減



総務部 課長
加藤 貴久さん

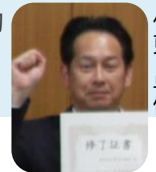
株式会社 原田工務店

とよた
SDGs
パートナー

豊田市認証
SDGs Certification BRONZE

- 建設を通じて脱炭素を推進するため、脱炭素資材の調達を行い、ICTによる省力施工を取り入れていきます。
- 情報を早期に入手し社内外へのPR活動を積極的に行いながら、脱炭素経営の先進的な企業を目指します。

2013▶2030 50% 削減



代表取締役
伊東 卓偉さん

株式会社海老澤建設

とよた
SDGs
パートナー

豊田市認証
SDGs Certification BRONZE

- 「子々孫々まで」を合言葉に、『未来に何が残せるか』を考え続ける会社を目指します。
- 「なくす・へらす・かえる」の取組みを、内訳まで含めて「見える化」し、自分事とします。
- 地盤改良エコジオ工法の施工件数アップにより、地盤改良工事におけるCO₂削減に貢献していきます。

2013▶2030 19% 削減



代表取締役
海老澤 咲子さん

太平産業株式会社

- 地域社会の一員として、また環境を担う一企業として、環境保全の重要性を深く認識し、事業活動を通じて環境負荷低減はもとより、より良い環境創造に努め、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

2021▶2030 28% 削減



第二営業部 顧問(古)
辰典 さん
第二営業部 次長(生)
増田 至功さん

近藤工業株式会社

豊田市認証
SDGs Certification SILVER

- まずは弊社の工場でCO₂排出量が一番高い工場をモデルに、持続可能なCO₂削減取組みとしての社内ESCO活動を推進していきます。
- ESCO活動による、省エネ改善ネタ積み上げ提案から改善実施や継続できる体制づくりに努めていきます。

2019▶2030 25% 削減



自動車部 部品事業部 営業部 参与
相羽 宏泰さん

株式会社 陣内工業所

とよた
SDGs
パートナー

- カーボンニュートラルを会社経営の重要課題と位置付けて取り組んでいきます。社内でプロジェクト組織を編成して対応します。
- 社内全体を巻き込んだ会議体の形成や、「CN推進担当部署」及び外部講師による社内周知を目的とした勉強会などを行い、カーボンニュートラル推進の体制を強化します。

2016▶2030 80% 削減



経理部
入交 拓也さん

豊田市脱炭素スクール修了生一覧

- 修了生(第1期生・第2期生・第3期)の皆さんは、自社の脱炭素経営に向けた事業計画や取組等を社内外に発信すると共に、脱炭素経営の実践に取り組まれています。

SBTi認定
5社

SDGs認証制度
ブロンズ以上
19社

豊田市カーボンニュートラル
関連補助金
14件活用

第1期生(16社)

※ QRコードを読み取ると、修了生が実施する脱炭素経営の取組を各社のHPからご覧いただくことができます

- ・ 株式会社アイサク (製造業)
- ・ 株式会社アイミクロン (製造業)
- ・ 株式会社市川鉄工所 (製造業)
- ・ 有限会社梅村工務店 (建設業)
- ・ エヌ電子工業株式会社 (製造業)
- ・ おいでんエネルギー株式会社
(電気・ガス・熱供給・水道業)
- ・ 株式会社キョウエイファイン (運輸業)
- ・ サンワインダストリー株式会社 (製造業)
- ・ 新明工業株式会社 (製造業)
- ・ 太啓建設株式会社 (建設業)
- ・ 豊田汽缶株式会社 (サービス業)
- ・ 豊田電気株式会社 (製造業)
- ・ 株式会社日東コンクリート工業 (製造業)
- ・ 株式会社ニフコ (製造業)
- ・ 株式会社豊栄商会 (製造業)
- ・ 株式会社ユーネットランス (運輸業)

第2期生(7社)

- ・ アール・ティ・エンジニアリング
株式会社 (製造業)
- ・ 株式会社市川メッキ (製造業)
- ・ 株式会社豊田ガーデン (造園工事業)
- ・ 豊田鋸加工所 (サービス業)
- ・ 株式会社松原電機 (電気工事業)
- ・ 株式会社マルコオ・ポーロ化工 (建設業)
- ・ 三河商事株式会社 (小売業)

第3期生(16社)

- ・ 株式会社海老澤建設 (建設業)
- ・ 内浜化成株式会社 (製造業)
- ・ 株式会社オティックス高岡 (製造業)
- ・ 株式会社加藤製作所 (製造業)
- ・ 株式会社鬼頭精器製作所 (製造業)
- ・ 光生アルミニウム工業株式会社
(製造業)
- ・ 近藤工業株式会社 (製造業)
- ・ 有限会社近藤工房 (製造業)
- ・ 三協高分子株式会社 (製造業)
- ・ 株式会社陣内工業所 (建設業)
- ・ 太平産業株式会社 (産業廃棄物中間処理業)
- ・ トヨキン株式会社 (製造業)
- ・ 株式会社原田工務店 (建設業)
- ・ 福田造園土木株式会社 (造園業)
- ・ 友新精機株式会社 (製造業)
- ・ 横山興業株式会社 (製造業)

豊田市の企業向け脱炭素支援策（令和6年度）

本市における脱炭素関連の主な支援策を紹介します。詳細は二次元コードをご参照ください。

相談

●カーボンニュートラル相談窓口（中小企業者向け）

豊田市内に事業所がある中小企業者を対象に、カーボンニュートラルや省エネに関して相談できる窓口を設置。

<ポイント>

- ①無料で相談可
- ②専門家によるアドバイス
- ③オンラインも対面（ものづくり創造拠点SENTAN）も対応



普及

●グリーン電力証書の販売

本市で活動する事業所及び団体を対象に、藤岡南中学校に設置している太陽光パネルで発電した電力及び渡刈クリーンセンターでバイオマス発電した電力から発生した、「グリーン電力証書」を販売。



●豊田市カーボンニュートラル省エネ生産設備導入促進補助金

市内で製造業に属する事業を営む中小企業者等が、既存生産設備を省エネ性能の高い生産設備に更新する費用の一部を補助。

対象設備：工作機械、プラスチック加工機械、プレス機械、印刷機械、ダイカストマシン、低炭素工業炉

補助率・上限額：豊田市SDGs認証（ゴールド、シルバーに限る。）を実績報告までに取得している場合、対象経費の1/2 上限4,500万円
上記以外の場合、対象経費の1/3 上限3,000万円
※指定申請受付期限：令和6年12月27日(金)

*詳細はHPをご覧ください



補助金

●豊田市カーボンニュートラル創エネ促進補助金

市内で製造業又は運輸業※1に属する事業を営む中小企業者等が、再エネ発電設備（太陽光発電、蓄電池等）を導入する費用の一部を補助。（自家消費に限る。）

補助率・上限額：豊田市SDGs認証（ゴールド、シルバーに限る。）を取得している場合、対象経費の2/3 上限4,000万円
上記以外の場合、対象経費の1/2 上限3,000万円
※指定申請受付期限：令和7年3月31日(月)

*詳細はHPをご覧ください

※1 運輸業の一部が対象になります。対象業種については、HP,要綱等をご確認ください



●事業者向け外部給電機能付次世代自動車普及促進事業補助金

市内の事業者が、外部給電機能付次世代自動車〔プラグインハイブリッド車(PHV)、電気自動車(EV)、燃料電池自動車(FCV)〕を自ら使用する目的で購入又はリース契約する場合に、その費用の一部を補助。

補助額

- ：FCV・EV-車両本体価格の5%(上限20万円) + 充電設備上乗せ補助(上限2万円)
- ：FCV-車両本体価格の5%(上限15万円)



減税

●豊田市版環境減税（再生可能エネルギー発電設備減税）

10kW以上2,000kW未満の事業用太陽光発電システム等の固定資産税（償却資産）を課税初年度より3年間1/2とする。（課税標準の特例が適用される場合を除く）

*詳細はHPをご覧ください



豊田市 環境部環境政策課

豊田市西町3-60 豊田市役所環境センター

TEL 0565-34-6650

<https://www.city.toyota.aichi.jp/index.html>